



県中いわて

令和4年6月1日 / 第256号

- 発行 / 岩手県中学校長会 ●代表 / 佐野 理 (盛岡市立上田中学校) ●事務局 / 〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9 (盛岡市勤労福祉会館2F) / 電話・FAX 019(622)0572 ●ホームページ <https://www.iwate-jh-kochokai.jp/>
●印刷 / 杜陵高速印刷 / 電話019(651)2110

会員一丸となり、新たな時代に向けて 第60回岩手県中学校長会総会 (令和4年4月28日開催)



第60回岩手県中学校長会の総会が、4月28日(木)に、都南文化会館(キャラホール)において開催されました。昨今の状況を考慮し、昨年に引き続き、半日ではありましたが、県内各地の会員の皆様に参集いただき開催することができました。

高田第一中(気仙地区)の菅野美穂子校長先生、大平中(釜石地区)の蛸島茂雄校長先生を議長に選出し、議事を進行していただき、昨年度の活動状況や決算状況を確認するとともに、令和4年度の活動方針や新しい組織体制について決議いただきました。

総会の内容については、次のとおりです。



総会次第

- 1 開会のことば
- 2 国歌(拝聴)
- 3 会長代行挨拶
- 4 来賓祝辞 (1) 岩手県教育委員会教育長
(2) 市町村教育委員会協議会長
- 5 行政説明 (1) 県教委教職員課小中人事課長
(2) 県教委学校教育室義務教育課長
- 6 議長選出
- 7 議事録署名委員委嘱
- 8 報告 (1) 令和3年度会務報告
(2) 令和3年度活動報告
(3) 令和3年度決算報告・監査報告
- 9 議事 (1) 令和3年度収入支出決算の承認
(2) 令和3年度基金歳入歳出決算の承認
(3) 令和4年度活動方針の決定
(4) 令和4年度収入支出予算の決定
(5) 令和4年度役員の選出並びに承認
- 10 閉会のことば

『会員の叡智を集結し、一丸となって』

岩手県中学校長会

会長 佐野 理



本日ここに、県内各地からの会員が一堂に会し、第60回岩手県中学校長会総会を開催できますことに心から感謝申し上げます。

中学校教育においては、昨年度全面実施となった学習指導要領の趣旨を踏まえた、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育課程の創造に努めるとともに、「いじめ問題と不登校解決への適切な対応」や「教職員の資質・能力の向上」「コンプライアンスの徹底」等に取り組むことが求められております。また、喫緊の課題である「学校における働き方改革の推進」や「GIGAスクール構想の実現」、「部活動改革」等については、目指

す理念や目的を広く共有し、これらの教育改革を円滑に進める必要があります。私たち校長は、その責務を果たすことができる学校づくりに尽力する必要があります。加えて、発災以降取り組んで参りました岩手の復興教育の理念を風化させることなく引き継いでいくか、その具体的な方策を確かなものにしていく時期も迎えています。

さらに令和6年度は、第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会の開催が予定されており、今年度は本格的に準備を進めなければなりません。これまでの校長会の歴史を大切に紡ぎながら、会員一致結束のもと、一丸となって取り組む岩手県中学校長会を目指して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご祝辞（要旨）

岩手県教育委員会

教育長 佐藤 博 様



第60回岩手県中学校長会定期総会の開催にあたり、岩手県教育委員会を代表し、一言お祝いを申し上げます。校長先生方には、各学校の最高責任

者として日々学校経営に御尽力いただいていることに対し、心から感謝を申し上げます。

県では「いわて県民計画（2019～2028）」と「岩手県教育振興計画」が4年目を迎え、第1期アクションプランの最終年度となりました。各学校におかれましては、学校教育指導指針の中に示しております指標を改めてご確認いただき、目標の達成に向けて取組の充実をお願いいたします。

予測困難で、変化が激しい現代社会において、

学校教育には、教育の基盤となる不易の部分を守りつつ、時代の変化に即した創造的な変革が求められています。特に、新たな学校における基盤的なツールとなるICTを最大限活用しながら、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが求められております。ICTの新たな可能性に着目し、校長先生方のリードのもと、教職員の協働による創意工夫をとおしてその活用が推進されていくことを期待しております。

今後とも、岩手の子どもたちのより一層の成長のために、御尽力いただくことをお願い申し上げ、あわせて県中学校長会のますますの発展を御祈念申し上げ、祝辞といたします。

令和4年度行政説明の概要

教育行政上の課題

教職員課首席経営指導主事兼

小中学校人事課長 熊谷 治久 様



- 1 令和4年度学校教職員定期人事異動について
異動総数1,342名（20.3%）管理職昇任は校長昇任96名、副校長昇任92名
いわて男女共同参画プランに基づき、女性職員のキャリア形成が求められている。
- 2 少人数教育の推進について
 - (1) 「少人数学級」本県では小中学校すべての学年で35人以下学級を実現
 - (2) 「少人数指導」個に応じたきめ細かな指導により基礎学力の向上
 - (3) 「サポート推進事業」すこやかサポートや学校生活サポートの活用
- 3 再任用について
R4年度はフルタイム勤務268名、29時間勤務178名ですが、29時間勤務の希望者数よりも加配の数のほうが少なくフルタイムに変更してもらうケースもある。
R4年度446名の再任用数がR5年度には、500人を超える見込みである。
- 4 人材育成について
今年度の新採用教諭は129校に配置。県内の約1/3以上の学校に配置しており「初任者を育てながら、周りの先生方も育つ。職員室全体が活性化する。」という雰囲気を醸成のこと。一部で、初任者は自家用車通勤禁止という誤解があったが、校長に運転を禁止する権限はないので適切に判断のこと。
- 5 不祥事の未然防止について
不祥事事案は、教員に対する県民の信頼を大きく損なうものである。各校におけるコンプライアンス研修が、事案を知ることにとどまらず、自分事として受け止められるように、事案の背景や影響、未然防止策等を少人数で協議するなど実施方法を工夫のこと。
- 6 働き方改革の取組について
校長のマネジメントは、部下職員が働きやすい環境を整え、教職員のやる気と意欲を喚起することにある。岩手の子どもたちの笑顔と、その子どもたちに関わる先生方が元気になれるよう、県教育行政も力を合わせて取り組んで参りたい。

本県の義務教育指導行政上の課題について

学校教育室首席指導主事兼

義務教育課長 三浦 隆 様



- 1 第1期アクションプランに基づく教育施策の推進について
「いわて県民計画」のアクションプランにおける各指標には届いていないものの、上昇傾向または高い数値の項目が多く、学校の先生方が日々の授業改善など、尽力している成果。
一方、コロナ禍が続く中、各校では「制約のある中でどうすればできるか」を考えていただいている。コロナだから諦めるのではなく、コロナだからこそ学ばべきこと、得られることを追求し、子供たちにとって一度きりのこの時間を「意義のある時間」としてほしい。制限の中での生活が続き、目に見えない抑圧が続く、震災からの復興の際に何よりも大切にしてきた、人と人とのつながりや絆を阻まれている。一層、子供たちに寄り添った指導ときめ細やかな配慮を。
- 2 一人一台端末を活用した児童生徒の学習活動の一層の充実について
学習指導要領の趣旨の実現のために、ICTの活用は不可欠。最大の研修は、学校で実際に授業の中で活用してみること。いまだになかなか手が伸びない教員への後押しを学校単位で推進してほしい。子どもたちの「個別最適な学び」を実現するためにはならないツールとなる。加えて、端末の持ち帰り、デジタル教科書の活用なども推進していく。県教委は「岩手県学校教育ICT推進協議会」において、地域間格差が生じないように取り組んでいく。
- 3 高等学校学習指導要領の実施と「いわての高校魅力化グランドデザイン」について
県立高等学校では、地域と協働した教育課程の特色化等のスクール・ポリシーの策定に取り組んでおり、すべての高校が独自の特色を打ち出し、スクール・ポリシーを策定、公表することとなっている。各中学校においては、こうした各高校の取組を進路情報として生徒に示しながら、総合的な学習の時間やいわての復興教育など、探究学習の一層の充実に努めてもらいたい。
- 4 終わりに（岩手だからこそできる教育、やるべき教育）
岩手県教育振興計画では「岩手だからこそできる教育、やるべき教育の推進」を掲げている。それは、特別な新しい取組ではなく、以前から、岩手の学校で当たり前に行われてきた教育。子どもたちの「幸福」「笑顔」を守り、未来を創造する力を育むため、学校と行政が手を携えて共に取り組んでいきたい。

第1回専門部地区担当者会議の報告

研究調査部

会議では、議長に齋藤秀一氏（二戸地区・軽米中）を選出、記録者に佐々木秀一氏（盛岡地区・飯岡中）を委嘱し、経過報告のあと、今年度の運営計画案、2つの調査研究、各種研究大会への対応等について協議し確認を行いました。

調査研究については、調査1「進路指導推進状況調査」及び調査2「教育課程編成実施状況調査」について、今年度の調査項目と留意事項を確認しました。各学校の学校経営等の改善に資するため、調査1は5月、調査2は10月に実施することとしました。調査結果の分析・考察は、幹事の佐々木秀一氏（盛岡地区・飯岡中）、鈴木雅史氏（岩手地区・江刈中）、伊藤茂美氏（紫波地区・矢巾北中）、芳賀郁夫氏（岩大附属中）のご協力を得ながら、年4回の幹事会を開催して行います。

なお、各地区の研究については、総会要項の「研究の手引き」を参照し、推進をお願いします。

＜研究調査担当理事 鈴木 美成＞

行財政部

会議では、議長に佐々木哲氏（気仙地区・大船渡一中）を選出し、記録者に浅沼寿典氏（釜石地区・吉里吉里中）を委嘱して、今年度の運営方針と事業計画について協議しました。

協議では、行財政調査の内容と進め方について意見交換を行い、事業推進日程を確認しました。内容については修正・変更の意見はありませんでした。

その後、幹事に齋藤齊氏（盛岡地区・城東中）、寺澤幸昌氏（岩手地区・西根中）、坂本大氏（紫波地区・紫波二中）を選出しました。

今後、幹事会で内容を確認したうえで調査を実施し、調査後の結果の集約・分析等を進めていくこととし、了承を得ました。

行財政調査は、7月中旬依頼～8月下旬地区締切の予定で、電子メールを活用して実施します。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

＜行財政担当理事 小野寺 哲男＞

生徒指導部

会議では、議長に勝部孝行氏（久慈地区・野田中）を選出、記録者に永本一志氏（二戸地区・奥中山中）を委嘱して、今年度の運営方針と事業計画について協議し、事業推進日程等の確認を行いました。

主要事業である「生徒指導の諸課題にかかる調査」は、令和3年度分を対象期間として調査を実施します。調査項目については、5月末より各地区担当を通してメール等の電子媒体で送付します。会員の皆様のご協力をお願いします。

なお、調査項目の内容、調査結果の分析・考察等は、幹事の米慎司氏（盛岡地区・見前南中）、高橋徹氏（岩手地区・西根第一中）、照井英輝氏（紫波地区・紫波第一中）のご協力を得て進めていくこととしました。調査結果は、8月中にまとめ、9月中に「結果と分析」の概要としてリーフレットを作成し、配布する予定です。

＜生徒指導担当理事 村田 和代＞

広報部

会議では議長に野里洋介氏（和賀地区・江釣子中）を選出し、記録者に工藤久尚氏（胆江地区・胆沢中）を委嘱して、今年度の運営方針と運営計画について協議するとともに、会報等における各地区への原稿執筆分担等を確認しました。

協議・確認された広報部の主な事業は、会報「県中いわて」の年3回発行と、会誌「岩手県中学校校長会会誌第34号」の発刊及びホームページの内容の更新をおこなって参ります。会報は今年度より年3回の発行とし、一つの号のページ数を増やすことで、今まで変わらぬ内容を掲載していくこととしました。また会報の執筆分担等については、新入会員の地区における人数や過去の寄稿状況等を考慮し、各地区への原稿執筆を依頼しました。

広報活動を通じて、情報共有を行い、会員相互のつながりが図られるよう努めて参ります。皆様のご協力をお願いいたします。

＜広報担当理事 泉澤 毅＞

退会者代表あいさつ

組織として歩む

前岩手県中学校長会長
松葉 覚



令和4年4月28日に第60回岩手県中学校長会総会が開催され、佐野 理 新会長のもと33名の新会員を迎え、令和4年度岩手県中学校長会の活動がスタートされましたことに、心からお慶び申し上げます。また、3月末をもって退会した36名を代表し、これまでに会員の皆様をはじめ多くの皆様方からいただきましたご支援ご協力に対しまして、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、昨年度の県中校長会は、2年ぶりに会員が一堂に会し、第59回総会を開催して活動をスタートしました。常に新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る学校の新しい生活様式に対応した感染症対策を講じながら、学校の行事や本会の事業等を行って参りました。しかしながら、6月に予定しておりました第71回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会は、東北6県の校長会との度重なる協議を経て、参集せずに「大会誌による研究協議会」として開催いたしました。また、各学校も行事等を実施する場合は、健康安全を最優先にその時の状況に応じながら判断を行い、適切な対応（実施・延期・縮小・中止）を行って参りました。判断で迷うこともありました。各中学校長は日頃から県及び地区の校長会と連携・協力しているので、互いに助け合うことができました。これによって、校長同士のつながりも深めることができました。

今年度も、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策に加え、学習指導要領の確実な実施、GIGAスクール構想の推進、いじめ問題や不登校対策・SNSを起因とした問題などへの対応、部活動の地域移行に関する検討や働き方改革の推進、「いわての復興教育」の新しいステージでの展開等、学校が抱える課題や取り組むべき内容はたくさんあります。県中校長会として、今後とも一枚岩となって叡智を結集し、求められている様々な改革や直面している課題を乗り越え、各校長が自信をもって学校経営を推進していくことを切に願っております。退

会者一同、微力ではありますが、校長先生方と県中学校長会のお役に立てればと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

結びに、岩手県中学校長会の益々の充実と発展をご期待申し上げ、退会者代表の挨拶といたします。

令和3年度末退会者

No.	地区	学校名	氏名
1	盛岡	盛岡市立下橋中学校	松葉 覚
2	盛岡	盛岡市立米内中学校	坂下 孝
3	盛岡	盛岡市立土淵中学校	北田 光志
4	盛岡	盛岡市立城東中学校	鈴木 裕樹
5	盛岡	盛岡市立松園中学校	内村 弘子
6	盛岡	盛岡市立見前南中学校	高橋 修
7	盛岡	岩手大学教育学部附属中学校	宮川 洋一
8	岩手	八幡平市立安代中学校	金野 節
9	岩手	滝沢市立姥屋敷小中学校	田村 敦子
10	岩手	滝沢市立滝沢南中学校	榊原 世士
11	岩手	滝沢市立滝沢第二中学校	三浦 猛雄
12	岩手	滝沢市立一本木中学校	菊池 千賀子
13	岩手	岩手町立沼宮内中学校	箱石 順一郎
14	岩手	葛巻町立小屋瀬中学校	鹿崎 良宏
15	岩手	葛巻町立江刈中学校	高橋 治
16	紫波	紫波町立紫波第一中学校	佐藤 嘉宏
17	紫波	矢巾町立矢巾中学校	福士 幸雄
18	花巻	花巻市立南城中学校	中村 哲
19	遠野	遠野市立遠野中学校	小向 敏夫
20	遠野	遠野市立遠野東中学校	多田 喜夫
21	和賀	北上市立上野中学校	高橋 信之
22	和賀	北上市立江釣子中学校	菅原 浩樹
23	和賀	北上市立和賀東中学校	八重樫 仁
24	胆江	奥州市立水沢中学校	千葉 和仁
25	胆江	奥州市立東水沢中学校	菊地 卓哉
26	胆江	奥州市立前沢中学校	関向 正俊
27	胆江	奥州市立胆沢中学校	鈴木 雅司
28	一関	一関市立一関中学校	時枝 直樹
29	一関	一関市立巖美中学校	千葉 豪
30	一関	一関市立大原中学校	伊東 秀敏
31	気仙	大船渡市立東朋中学校	村上 亮
32	釜石	釜石市立釜石中学校	佐々木 猛
33	釜石	大槌町立大槌学園	松橋 文明
34	久慈	久慈市立久慈中学校	菊地 理
35	久慈	久慈市立夏井中学校	門前 雅紀
36	二戸	二戸市立福岡中学校	前田 稔

新任校長の抱負

福を運ぶフクロウ

和賀地区 菅原 文江（北上北中）



「飛勢（とばせ）の丘」と呼ばれる高台に建つ歴史ある北上北中学校に、この春、着任いたしました。校舎は森に囲まれています。引継ぎで訪れた時は、下に広がる田んぼから遠くにある校舎がはっきりと見えましたが、新緑の季節となり、木々の緑にすっかり隠れてしまいました。朝は木々の間から盛んに鳥のさえずりが聞こえ、丘を上ってきた生徒の元気な挨拶に会います。

5月のある日、楽しい出来事がありました。校庭に面した大木の幹の穴の中にフクロウがいたのです。最初に気付いたのは草刈りをしていた職員で、背中に視線を感じ、振り返るとフクロウに見つめられていたのだとか。職員が入れ替わりで見に行き、写真を撮っても動じず、まばたきをしてこちらをじっと見つめる愛らしいフクロウ。数日後には校庭脇の木の上に移動し、生徒にも気付かれ、校内はちょっとしたフクロウブームに。この時期に良いことがいろいろ起こるように感じたのは私だけではないようです。特別支援学級の生徒が描いた「福を運ぶフクロウ」というタイトルの絵が壁に貼られています。4月後半に新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、体育祭を6月に延期した我が校ですが、フクロウの出現と同時に、穏やかな日常が戻ってきました。

校長に昇任する前、私は校長職に違うイメージを持っていました。校長は孤独なのではないか、生徒から遠くなるのではないか、優柔不断な自分には務まらないのではないか、等です。しかし、実際になってみると、職員と温かいつながりを感じ、全校生徒が自分の生徒として近く感じられます。今の私でもできることがあり、そこから始めて、職員・生徒とともに成長していけばよいのだということもわかってきました。職員一人一人と面談をするうちに、自分がここにいる意味もわかってきた気がしています。学校が楽しい、この学校にいるのが幸せだと感じられる職場づくり・学校づくりを、私自身が楽しんでいきたいと思っています。

新任校長の抱負

「郷土を知り、郷土を愛し、郷土を支える人」の育成を目指して

宮古地区 杉下奈津子（津軽石中）



津軽石中学校は、東日本大震災の津波での浸水被害、さらには令和元年の台風19号による被害も経験している地域にある学校です。創立から70年を超える学校ですが、創立以前から、豊かな自然の恵みを楽しみつつも、反面、自然の驚異である災害に向き合ってきた地であることが校歌の詩からも見えます。校歌には、「万里の波濤乗り越えし 虎丸の意気知るや 父祖がのこせる剛健の 気風を継ぎて共々に」とあります。

被災地での教育、生徒・保護者、地域に寄り添う教育はどうあればよいのか、「復興教育」を今までの学校で進めてきてはいたものの、不安を抱えたまま4月赴任しました。しかしながら、生徒・職員を目の前にし、本校独自の内容の「復興教育」が早速4月から展開されている様子を見るにつけ、私自身の不安も解消され、それ以上に「郷土を知り、郷土を愛し、郷土を支える人」に目の前の子どもたちを育てたいという思いが強くなってきました。

本校では、1年生はすでに地域産業を知る機会となる「さけ稚魚壮行会」への参加、漁場復興のためにご尽力された講師の方からの講義と「牡蠣むき体験」を行っています。また、全校では、地域の方からご指導いただきながら、4つの地域芸能活動に取り組み、文化祭で保護者・地域の方々に披露します。中でも、「法の脇獅子舞」は、東日本大震災で浸水被害にあい、一切の道具や衣装を流失したものの、生徒自らが保存会の方々に協力を仰ぎ、一から作り復活させたものです。震災後、途絶えていた郷土芸能の活動を子どもたちの手で復活させたという経緯のある活動です。

教職員、保護者、地域がチームとなって、教育目標である「賢き人 優しき人 強き人 ～志に生きる～」のもと、生まれ育った郷土への愛と郷土の復興を担う意欲をもち、目標に向かって逞しく進んでいく「志に生きる」生徒の育成に励んでいきます。

新任校長の抱負

「夢抱いて生きる」
生徒のために

釜石地区 佃 拓生（釜石東中）

本校は、昭和49年度に開校し、東日本大震災の後、平成29年度に鶴住居小学校や鶴住居幼稚園と施設一体型の新校舎が高台に整備されました。校長室からは、釜石鶴住居復興スタジアムや時々行き交う三陸鉄道の列車等が見えます。この学び舎で、全校生徒102名が生徒会スローガン「NEW AGE」を掲げ、学習や生徒会活動、部活動等に日々ひたむきに取り組んでいます。

小中9年間の防災教育、復興教育等をはじめ、本校では「笑顔が溢れ、活力の中にも安らぎと温もりと潤いのあるハピネス・スクール」の実現を目指す「東中ハピネス・スクール創造プラン」という行動指針を大切にしています。これは、ディズニーの4つの鍵「Safety・Courtesy・Show・Efficiency」を参考にしたものと、引継ぎで伺いました。

新任式では、本校が歌い継いできた「いつかこの海をこえて」の合唱で迎えてもらいました。この曲は、歌詞の行頭の1文字をつなげると「鶴住居で生きる」「夢抱いて生きる」のメッセージになっています。様々な想いが伝わってきて、新任校長ではあっても、生徒たちがこの地域に生きる一人として郷土を愛し、地域に貢献できるように尽くさねばと思わずにいられませんでした。

しかし、そのような職責を担えるだけのリーダーシップにはまだ程遠く、不安と戸惑いばかりの中で、副校長の的確な采配と、教職員の献身的な仕事ぶり、そして、地区校長会の先輩方をはじめ、関係の皆様のご助言等のおかげで、今日まで過ごすことができたと思っております。また、初めて給食のある学校に勤務し、おいしくいただいていたら、身体も一回り大きくなりました。

これからも釜石東中学校で「夢抱いて生きる」生徒の強く生き抜く力の育成を図り、将来にわたる幸福（ハピネス）の実現のために、学校運営協議会等で保護者や地域の皆様からのご意見をいただきながら最善策を一緒に考え、地域とともにある学校づくりに努めて参る所存です。どうぞよろしくお願いたします。

新任校長の抱負

夏井のさわやかな風



久慈地区 木村 亮（夏井中）

本校は、久慈市中心部から北側に一山超えた夏井川の畔に位置しており、学校周辺には田園風景が広がり、校舎二階からは遠く太平洋を望むことができる自然豊かな学区を有しています。その落ち着いた環境で生徒34名が明るく学校生活を送っています。

本校の学校教育目標には、知徳体の育成と共に「夏井のさわやかな風になり、地域に元気を発信する生徒」を掲げています。これは、地域の大切な財産であり、岩手県指定無形文化財にも指定されている夏井大梵天神楽の継承活動や、基幹産業である稲作について、育苗や田植えから収穫の喜びを実感できる稲刈りや調理まで、身をもって学ぶことができる地域独自の教育活動が根付いており、学校や生徒が地域から見守られ育てていただいていることへの感謝の気持ちを、学習成果の披露や、ボランティア活動への積極的な参加等の地域貢献活動を通して表し、地域で感じられるやさしくさわやかな風に例えて、生徒が地域を繋ぐ存在になることを目指しているからです。そして、生徒自身がどうすれば地域貢献できるかをよく考え、気づき活動している姿が学校の誇りであり、本校の大切な目指す生徒像として、引き続きその育成に向け尽力していきます。

新任校長として赴任した私自身も、コロナ感染リスク回避と教育活動確保の両立等、判断に迷い不安を抱えていることが多い中で、明るい挨拶や頷きながら話を聞いてくれる生徒の素直で真摯な姿や、やさしく対応してくださる保護者や地域の皆様には、初夏のさわやかな風に似た、思いやりのやさしい風に包まれながら日々を過ごすことができています。

これからは、私自身も夏井のさわやかな風になれるよう、小規模校の良さを生かし、一人一人に焦点を当てながら社会人となる素地を育てること、地域、保護者、関係の皆様と協力し、故郷に誇りを持ち、地域愛を持ち続ける生徒の育成を目指し、校長としての責務を果たしていきたいと思っております。

私の学校経営

「伝え合い 響き合い
高め合う」

紫波地区 佐藤 智一（紫波三中）

本校は昨年度から西の杜小学校と共に小中一貫校紫波西学園となり、「探求の対話（p4c）」に取り組んでいます。そのねらいは次の3つです。

- ・ ルールに守られた対話を重ねることで、子供たちの間に相互理解や相互信頼による安心感を確立すること。
- ・ どの子も「自分の言葉で伝え、真剣に聴き、共に考えることを経験することで、子供たちの学びと学校生活を支える土台を築くこと。
- ・ 対話のプロセスを楽しむ体験で育まれた信頼と安心を基に、子供たちが「伝え合い 響き合い 高め合う」授業をつくること。

「伝え合い 響き合い 高め合う」授業は、主体的・対話的で深い学びに他なりません。伝え合うには、自分で考え表現することが必要になります。それは、自律的に学ぶ姿です。響き合うには、課題解決のために知恵と力を合わせることが必要になります。それは、協働的に学ぶ姿です。高め合うには、学びを広げ深めていくことが必要になります。それは、創造的に学ぶ姿です。こうした学びを日々の授業で実現していくことが、紫波西学園の小中一貫教育目標「ふるさとの未来創造的な学びを実現する児童生徒の育成」につながっていくと考えています。

学校経営のもう一つの柱は、「ふるさと学習」です。地域の豊富な人材等を活かし、体験と対話で「小学校と中学校・子供と大人・地域と学校」をつなぐ学びに取り組んでいます。6月10日には、地域のゲストティーチャー20名と少人数グループで車座になり対話する「あずまネフカフェ」を開催しました。ふるさとの人や仕事を通して社会を感じ、今年度の探求テーマを見つけることがねらいです。その実現には、CSコーディネーターの力をお借りしました。

学校は、より良く生きる力をつけることです。こうした学びを通して、将来みんなと一緒に幸せな社会を創る力を育む学校づくりを目指しています。

令和4年度 新 会 員

No	地 区	学校名	氏 名	前 所 属 職
1	盛 岡	松 園	小野寺 満	繫小学校校長
2	盛 岡	玉 山	長 畑 滋 彦	雫石中学校副校長
3	盛 岡	岩 附 大 属	溝 口 昭 彦	岩手大学教育学部教授
4	岩 手	安 代	高 橋 眞 喜 子	滝沢南中学校副校長
5	岩 手	小屋瀬	阿 部 正 史	紫波第二中学校副校長
6	岩 手	江 刈	鈴 木 雅 史	花巻中学校副校長
7	岩 手	姥屋敷小・中	高 橋 邦 明	仙北中学校副校長
8	紫 波	紫 波	照 井 英 輝	八幡平市教委教育指導課長
9	遠 野	遠 野	堀 村 克 利	鶴住居小学校校長
10	遠 野	遠野東	佐々木 誠	釜石市教委学校教育課長
11	和 賀	北上北	菅 原 文 江	東山中学校副校長
12	和 賀	江釣子	野 里 洋 介	滝沢中学校副校長
13	和 賀	和賀東	馬 場 美 輝 彦	長内中学校副校長
14	和 賀	沢 内	佐 藤 克 宏	西根第一中学校副校長
15	一 関	敝 美	佐 藤 幸 雄	飯豊中学校副校長
16	一 関	大 原	菊 池 弘 明	江釣子中学校副校長
17	一 関	川 崎	眞 島 繁 明	大宮中学校副校長
18	一 関	藤 沢	廣 澤 正 紀	厨川中学校副校長
19	釜 石	釜石東	佃 拓 生	上田中学校副校長
20	釜 石	大 学 槌 園	小 石 敦 子	末崎小学校校長
21	宮 古	花 輪	佐々木 雅 史	野田中学校副校長
22	宮 古	津軽石	杉 下 奈 津 子	山形中学校副校長
23	宮 古	田 老 第 一	高 橋 敦	大川目中学校副校長
24	久 慈	夏 井	木 村 亮	山田中学校副校長
25	久 慈	種 市	千 田 博 之	水沢中学校副校長
26	久 慈	中 野	村 上 淳	下小路中学校副校長
27	二 戸	福 岡	筒 井 裕 一	田老第一小学校校長
28	二 戸	金田一	遠 藤 暢 睦	上野中学校副校長
29	二 戸	浄法寺	吉 田 智	北松園中学校副校長
30	二 戸	軽 米	齋 藤 秀 一	見前中学校副校長
31	二 戸	九 戸	岡 田 幸 一	桜町中学校副校長
32	二 戸	一 戸	佐々木 由貴子	沼宮内中学校副校長
33	二 戸	奥中山	永 本 一 志	南城中学校副校長